

令和7年度 第4回 学校運営協議会 会議録（要点記録）

1. 開催日時 令和8年2月6日（金） 13時30分から15時30分まで
2. 開催場所 浜松市立浜北北部中学校 尽力ホール
3. 出席委員 山本忠雄 河合貴幸 馬塚孝雅（学校支援CD） 鈴木貴子 小西雅子
4. 欠席委員 なし
5. オブザーバー 細川恭由（中瀬協働センター）
6. 学校支援コーディネーター（委員外） 岡本奈緒（兼CSディレクター）
7. 学 校 中野有哉（校長） 松島 歩（教頭） 永田大介（主幹） 石島正巳 市川智也（CS担当教員）
8. 傍 聴 者 なし
9. 会議録作成者 岡本奈緒
10. 議長の選出

司会から議長の選出について委員に意見を求めたところ、委員から会長を推挙する旨の発言があり、全員異議なくこれを承認した。

11. 協議事項

- (1) 学校関係者評価について
- (2) 学校運営協議会自己評価について
- (3) 来年度の学校運営の基本方針について

12. 会議記録

司会の教頭より、委員総数5名のうち5名の出席があり、過半数に達しているため、会議が成立している旨の報告があった。

(1) 学校関係者評価について

主幹より別途資料に基づき概要説明があり、委員からは以下の発言があった。

河合委員：全体を通してみると高評価の印象。80%以上の設問が「そう思う・だいたい」を選択している。自信を持って良い部分といえる。いじめについて大事なことは、一人一人の子どもたちの心をどう掴んでいくか。次へのアクションにプラスして、個の見届けを丁寧に継続していくことが必要だろう。また、授業への理解については、次のアクションに繋がる策を練らなければならないところ。職員の評価が低い設問については、やるべきことがあるのではないかと考えることができる。研修内容を充実させる、集団的に授業の形を論ずる等、改善策をたてるのはこちら側の責任であろう。是非、そういった評価の見方をしてもらいたい。

交通安全については、命の保障を考えて細部にまで安全のために意識する職員と、子どもたちの視点やイメージがずれているのではないか。そのずれをどう近づけていくかがこれからの改善策に繋がっていくだろう。

馬塚委員：生徒、保護者、職員の三者による評価のずれが顕著に出ているところを受け止めた。「そう思う」が一番多い設問は何かを探してみると「友達がいる」だった。これはとても素敵なこと。友達は、何かしら助け合ったり励まし合ったりすることができる。子供たちが自信を持ってよ

い部分ではないか。交通安全について、登下校は守られているはず、週末の自転車が問題ではないか。そこに関しては、学校ではなく保護者側の責任も大きいだろう。

小西委員：昨年との評価の推移を見たい。その推移の変化は、学年や生徒の特色なのか、学校が進めている方針なのか、関わりにより結果はどうだったのかが読み取れるだろう。

大半の大人や子どもは、大きな不満が無ければ「そう思う・大体そう思う」を選択する。そこをあえて「思わない、わからない」に選択することは、訴えたいことや伝えたいメッセージがあるのだろう。その設問ごとに記述できる欄があれば、小さな声にも対応できるのではないか。何もなければそれでいいが、アンケートとして%数値を見たいだけではないはず。救うべきところには手を差し伸べる手段があった方がよいのではないか。

山本会長：昨年との推移で特徴的なことがあればお知らせいただきたい。

主幹：挨拶、言葉使いについては伸びている。他の項目も大幅ダウンした項目はない。いじめについては、否定的な意見の「1」はとても重く受け止めており、河合委員からも個をどうするかについて意見をいただいた。生徒、保護者、職員を比べるという観点から、いじめや友達関係についても同設問項目で並べたが、月に一度、子どもたちに対してはいじめアンケートを実施している。そこでは相談相手について希望欄を記入することも可能となっており、即日対応をしている。双方を循環しながら捉えていくよう今後も続けていきたい。

小西委員：今後は保護者にどのように対応していくのか。

主幹：対応できる場所は、学校側の説明でご理解いただくこともある。教職員には、改善しなければいけないことについては共通理解として伝えている。このアンケートで学校に伝えたいという何らかのお気持ちはあったと思う。そのお気持ちには学校として想像力は持たなければならぬと思っている。

小西委員：大変ご苦勞を感じる、ご対応をありがたく思う。

鈴木委員：学年カラーも異なると思うので、成長を重ねるごとに変化する視点でも見てみたい。三年間で大きく成長する時期。そういったアンケートの取り方もよいのではないか。

主幹：生徒、保護者のみについては、学年毎に昨年と比較しながら集計できる場所ではある。

鈴木委員：学校についての設問で「思わない」という意見は、子どもあつての学校、率直に理由を聞きたいところ。学習について、宿題が減っていると感じる。親として力不足も感じるが、学校側として宿題をなくしたいろいろな理由があるのだろう。それを保護者に伝えて欲しい。学校の見解が保護者に伝わっていないがために、そのギャップが不服として表れるのではないか。全て対応するのは大変だが、紙面化や結果報告など、伝える場があったら良いと思う。

主幹：学習や行事について、直接的な表現もあるが例年と比べて今年度はこうしていくという結論めいたところだけでも、納得感を得られるようなかたちをとれるよう考えたい。

理由の周知については、大事だと思う。宿題が減ったことについて、家庭学習の大切さや取り組みについて気をつけることをアドバイスしていきたい。

（2）学校運営協議会の自己評価について

会長より、各項目ごとの評価段階について委員へ報告し、賛同を得た。

(3) 来年度の学校運営の基本方針について

校長より、資料をもとに来年度の基本方針について、および休日部活動の地域移行について説明があり、委員からは以下の意見があった。

馬塚委員：他の部の進捗が全くわからず気になるが、テニス部は部活とは別にルール化されている保護者組織がある。課題や議論が必要な案件はいくつかあるが、このまま「はまクル」に持っているのではないかという段階。現在は、保護者会の中の経験者のみでやりくりができていますが、その保護者が抜けたらその先はどうなるのか課題は残る。地域のどこにどんな経験者がいるのかという情報は全くない。そうすると、地域が絡んでやっているかについては疑問が残る。これがクラブ化として維持できるかは別課題だろう。

校長：部ごとに事情は異なる。足並みをそろえる性質のものでもない。できるところからできる範囲で。地域展開が最終的に目指すところは持続可能かどうか。地域に一定の指導者がいて受け皿があるというのが目標。立ち上がりの段階では難しいところ。

山本会長：先の見通しが全くつかない部については、来年度の転換が気になる場所である。

馬塚委員：はまクル認定の有無によって部の存続は変わってくるのか。

校長：来年度においては無い。しかし、将来的には生徒数や職員の減少により、部が減っていくことは考えられる。実際、他校でもそういった流れになってきている。

馬塚委員：はまクルには職員も入れるのか。

校長：職員に関しては、基本的には参加しない。希望するのであれば、職員としてではなく登録することになる。自校を担当できるとも限らない。

馬塚委員：一生懸命頑張りたいと思う子どもたちの学ぶ場を失わずにすむようになればと思う。

校長：職員も頼まれて付度でやってしまうことは避けなければならない。持続可能かどうかを考えた時に、職員も異動があるため難しいだろう。

河合委員：小学校の部活がなくなった時、少年団活動が受け皿になった。多方面からお叱りも受け、過渡期にあった子どもたちは、学びの場が減って苦しい思いをした子もいただろう。だが、その時に芽生えた少年団活動が今は主流となり、土日については自然な形になっている。今回はもっと大きな流れだが、大変革だと皆が理解しなければならない。体制が変わってもその時々で最善を尽くす。この大義ある中でどういった考えをもって今を過ごすのか。学校も職員も保護者も子どもたちも考えなければならない。働き方改革や少子化問題から、理想形のはず。みんなの住みやすい社会を考えた時に、良い意味での大転換だと受け止めていくしかないだろう。

山本会長：是非、子供たちが不利益にならないような運営となるよう祈りたい。

来年度の学校運営の基本方針について、委員全員が内容を確認し承知した。

教頭より、卒業式の日程のご案内をし、会を閉じた。